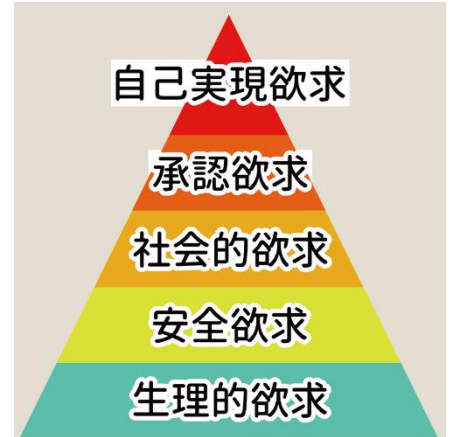




自己実現していく子供たちを育む

「わくわく通信156号」では、「めあてを立て、それに向かって行動し、常にその行動を振り返ることが、目標達成へと繋がります。そして、目標達成を繰り返すことで、『夢実現』へと結実していくのです。そういう意味からも帯西では、『目標やめあて』という子供たちの意思決定の連続を大切にしています。」と書きました。

目標達成=自己実現ということであり、その大切さをアメリカの心理学者アブラハム・マズローという心理学者も提唱しています。マズローの欲求5段階説は、人間の欲求が以下の5つの階層に分かれているとする説です。下層の「生命維持に最低限必要なものを欲する欲求」から、上に向かってピラミッド型の序列になっている特徴があります。生理的欲求は、生きていくために必要な、基本的・本能的な欲求(食欲・眠欲・泄欲)です。安全欲求は、安心・安全な暮らしへの欲求です。社会的欲求は、集団に所属したい、仲間を得たい、家族や友人などから受け入れられたいという欲求です。承認欲求は、他者から認められたいと願う欲求です。この承認欲求から、自分の内面を満たしたいと考える欲求となってきます。この欲求が妨害されると、劣等感や無力感などの感情が生じます。そして、最上層の自己実現欲求ですが、「自分が満足できる自分になりたい」と願う欲求です。自己実現の欲求の方向性や規模は人によってさまざまです。マズローは、「自己実現を生きる人は、自分に与えられた恩恵や幸運をしっかりと受け止め、感謝する心を基本に据えることができている、それゆえに自分の人生をより大切に扱うようになるという特徴がある。」という趣旨のようなことを述べています。自己実現の欲求を満たそうとすることは、決して自分本位なものでもなければ自己中心的なものでもなく、むしろこの欲求を満たすことは自分の人生が豊かになるだけでなく、周りの人々や社会全体によりよい影響を及ぼすということでしょう。



帯西では、子供たちがめあてを立てて実践し、「4つの心」で振り返りながら、自分の成長の実感を仲間とともに「認め合う」ことで味わっています。その結果として、「自己有用感」が伸びているのは、マズローの自己実現欲求と同じ意味を持つと考えています。これからも子供たちそれぞれに応じた、目標やめあてを立てて、自分の成長を楽しみながら自己実現していく子供たちを育てていきたいと思えます。